

2022年2月14日

各位

会社名 株式会社カイオム・バイオサイエンス  
代表者名 代表取締役社長 小林 茂  
(コード：4583 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 経営企画室長 美女平 在彦  
(TEL. 03-6383-3746)

**2021年12月期業績の前期実績との差異、  
営業外収益及び営業外費用、並びに特別損失計上に関するお知らせ**

2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、2021年12月期第4四半期累計期間（2021年1月1日～2021年12月31日）におきまして、下記のとおり営業外収益及び営業外費用並びに特別利益を計上いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年12月期業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	百万円 480	百万円 △1,283	百万円 △1,291	百万円 △1,293	円 銭 △36.06
当期実績（B）	712	△1,334	△1,329	△1,479	△36.74
増減額（B－A）	232	△50	△37	△186	
増減率（％）	48.3	－	－	－	

（差異の理由）

2021年12月期業績につきまして、売上高は前事業年度対比で232百万円の増収となりました。これは主に、創薬事業においてLIV-2008及びLIV-2008bのライセンス契約締結により受領した契約一時金を売上高に計上したことや、創薬支援事業において研究受託取引が好調に推移したことによるものであります。また、2021年度12月期の業績予想では創薬支援事業の売上高530百万円のみを業績予想数値として公表をしておりましたが、同事業における2021年12月期実績は売上高609百万円（増加額79百万円、増加率14.9%）となりました。なお、2022年度の創薬支援事業の業績予想につきましては、2022年2月14日にお知らせしております『2021年12月期決算短信』に記載のとおり、売上高は620百万円となっております。

また、各段階利益につきましては、営業利益・経常利益・当期純利益のいずれも前年より赤字幅が増加いたしました。これは主に、自社で開発中のCBA-1535におけるCMC費用を計上したことによるもの、並びに当期純利益に関しては下記の2（3）の通り投資有価証券の評価損を計上したことによるものであります。

## 2. 営業外収益及び営業外費用並びに特別損失の計上

### (1). 営業外収益の内容

当社は2021年12月期第4四半期累計期間において、補助金収入5,379千円を営業外収益に計上いたしました。これは主に、ADLib®システムの技術改良及び感染症領域の研究に関する国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の助成事業に係る委託研究開発費収入について、補助金収入として計上したことによるものです。

### (2). 営業外費用の内容

当社は同累計期間において、2021年11月29日付「第三者割当による第18回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（コミットメント条項、行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」にてお知らせしましたように新株予約権の発行を実施しておりますが、その際に要した価格算定費用及び弁護士費用等の発行諸費用について新株予約権発行費として6,246千円を営業外費用に計上いたしました。

### (3). 特別損失の内容

当社は同累計期間において、当社が保有する株式会社 Trans Chromosomics に係る投資有価証券について実質価額が簿価を著しく下回っていることから、特別損失として投資有価証券評価損149,999千円を計上いたしました。

### (4). 業績に与える影響

本件は本日公表の「2021年12月期決算短信」に反映しております。

以 上